

日本語版 Wikipedia における専門用語解説の分野間比較

山村あずさ

専門用語の習得は、専門書を介して学術コミュニティ内でのみで行われるのがほとんどだった。しかしインターネットの普及により、誰もが専門用語に触れる機会が増えてきている。また、専門用語と一般語または日常語の境目というのは元々曖昧であるとも言われる。では、どのような媒体でそれが観察できるかと言えば、たとえば誰もが無料で閲覧し、編集できるインターネット百科事典の Wikipedia が挙げられる。Wikipedia は知名度が高く、また、特定の分野に限らず様々な知識が集積していく点が非常に特徴的である。そのため様々な分野で専門性の高い記事が生起してくることも期待できる。

では実際に Wikipedia がどのように利用されているだろうか。学生においては Wikipedia の利用が普及していること、Wikipedia の利用目的は分からない用語を調べることが多いが、信頼性については疑問を持ちながら利用していること、そして、Wikipedia はブリタニカ百科事典より多少信頼性に欠けることなどが、先行研究では示されている。しかし利用者を限定せずに広がり続ける Wikipedia の特徴は伝統的な冊子体の専門用語辞典にはないものであり、ある特定の分野でしか用いられていなかった専門用語が、社会に広がり、人々に知られる言葉となっていく現象が観察される場であると推測される。本研究では、日本語版 Wikipedia を対象にして次の3つの観点から、分野の特性を観察する。-(1) 当該分野の専門用語辞典に載録されている用語のうち、どれだけが Wikipedia にも載録されているかの調査、-(2) Wikipedia による専門用語積義の量的特性の調査、-(3) 載録されていた用語の Wikipedia 記事の編集履歴の調査を行った。比較する分野には図書館情報学、結晶成長学、食品微生物学の3分野をその対象として選んだ。図書館情報学は用語の統制に積極的と推測される分野、結晶成長学と食品微生物学は、それぞれ一般の人々の生活に馴染みのない分野と比較的馴染みのある分野の例として選出した。調査(1)では単純な載録率を求め、図書館情報学は 24.04%、結晶成長学は 8.65%、食品微生物学は 19.60%の載録率であった。調査(2)では記事の記述に影響を及ぼしている因子を探索的に求めるために因子分析を行ったところ、図書館情報学と結晶成長学では記事の記述に影響を与える因子が異なるという結果が得られた、そして調査(3)で語の編集回数・編集人数の経年変化を調べて、分散、標準偏差を算出し、編集人数では3分野とも10人以下の編集者による記事が全体の40~50%を占め、その後は編集人数の増加に伴い記事数は減少していくヒストグラムを示した。年毎の編集回数のばらつきが最も大きいのは、図書館情報学で、ばらつきが小さいのは結晶成長学ということが分かった。

(指導教員 芳鐘冬樹)